

## HAMADA 教育魅力化コンソーシアム 令和3年度第1回役員会 議事録

- 日 時 令和3年5月13日(木) 10:00~11:30
- 場 所 浜田市立中央図書館2階多目的ホール
- 出 欠 出席役員15名、欠席役員1名
- 結 果 規約の一部改正について・・・・・・・・・・承認  
会長、副会長及び監事の選任について・・・・・・・・承認
  - ・会 長：岡田泰宏(浜田市教育委員会 教育長)
  - ・副会長：熊谷修山(島根県立浜田高等学校 校長)
  - ・監 事：田村洋二(浜田商工会議所 専務理事)
  - ・監 事：山川俊二(石中央商工会 事務局長)令和3年度事業計画(案)について・・・・・・・・承認  
令和3年度事業予算(案)について・・・・・・・・承認

### 主な意見等

#### [会長あいさつ]

『教育の魅力化』は「地域に愛着を持って、地域や社会の役に立ちたい」そういう『人づくり』を目指すもの。そのためには学校だけではなく、地域や家庭が“協働”して必要となる生きる力を育んでいこうというものだと考えている。

浜田市のコンソーシアムについては、『教育魅力化』ということにはなっているが、中心となるのは地元の『高校の魅力化』であり、各団体のご支援をいただきながら協働して事業に取り組みたい。

これは、一方的に地域が高校を支えるということではなく、学生の皆さんも地域に出ていただいて、様々な地域の課題解決の貢献していただき、子どもも地域も共に高まり合う関係性を築いていくことが重要だと考えている。各高校の個性、学びの特性等については、異なるが、『地域とともにある学校』のために、学生や保護者に『選ばれる学校』になっていく理想図を目指してこのコンソーシアムで応援していきたいと考えている。

#### [コンソーシアムに期待すること]

##### (浜田学校 校長)

- ・新たな教育指導要領では、“主体的で対話的で深い学び”が掲げられている。これまでの本校の普通科の在り方は、「生徒の『主体性』をそいでいた面があるのではないか」、「生徒が多様な世の中のことを知り、自分で選択をするという『主体性』が十分できていなかった面があるのではないか」との反省があり、これからキャリア教育を進める中で「社会とのつながりを作っていく」、「社会に出たときの見通しを持たせたい」という思いを持っている。

- ・『浜田』との関わりが大きく持たせることによって、結果として一度は大学等  
で出ていくけれども戻ってきてがんばりたいという生徒を育てたいと考えて  
おり、コンソーシアムにご支援いただきながらキャリア教育を進めていくこ  
とが重要ではないかと思っている。

(浜田商業高校 校長)

- ・本校では、「浜田市で生まれ育った生徒を地元きちんと就職させていく」と  
いうことがスクールミッションだと考えている。
- ・令和3年3月卒業の生徒(73名)の進路について、44名は、就職(内4名公務  
員、31名県内、9名県外)29名は、進学(県立大学にも進学)となっている。
- ・地域の課題研究では、生徒が何に興味を持つかによってその生徒の進路に大  
きく関わることになる。教員もサポートするが地域の専門的な観点からのア  
ドバイスが必要で、コンソーシアムが設立されたことは、本校にとってあり  
がたいことだと感じている。

(浜田水産高校 校長)

- ・本校のスクールミッションは、「元気のある専門性を持った働き人の育成」、  
「地域の基幹産業である水産、海運産業を支える人材育成」だと考えている。
- ・浜田地域では唯一『しまね留学』に取り組んでおり、現在148名中、49名が  
県外生となっているが、せつかく県外から来ても地元に戻ってしまう。
- ・この春は2名の生徒が地元の水産業に就職してくれた。外から来て、3年間浜  
田で過ごし、「浜田っていいな」と思って浜田に就職してくれた。できるだけ  
浜田に定住できるようにこのコンソーシアムを通じて一緒に考えていきた  
い。

[事業計画・事業予算に関すること]

(浜田高校校長 意見)

- ・浜田高校では、昨年度、自発的に「地域の中で何か活動したい」という3年  
生の生徒が集まり学校に要請があった。この時に、教育委員会の魅力化コー  
ディネーターに協力要請したところ、生徒の「こんなことがしたい」という  
思いを地域のニーズに繋げてくれたということがあった。こうした取組をコ  
ンソーシアムに期待している。
- ・これまでも、生徒の中には、地域活動に参加したいという、ニーズや意見が  
あったと思うが、それを地域につなぐシステムがなかった。
- ・コンソーシアムが中心となり、地域と高校とのマッチングが広がっていくこ  
とで、地域の活動が高校の中に情報として入ってくることを期待している。

(浜田ろう学校校長 質問)

- ・コンソーシアムで専門家とのアドバイザー契約を締結するということが、  
各学校での課題などについても気軽に相談できるのか。

(事務局 回答)

- ・協議に基づく業務内容での契約となるため、契約業務外については、別途事業費が必要になる。こういったニーズが今後もあるのであれば、令和4年度以降のところ、そういった予算にも検討したい。

**(浜田商工会議所専務 質問)**

- ・浜田市には県立大学があるが地元高校からの進学が少ない。地元からの進学が少ないということは、引いては地元企業への就職も少ないということになる。地元の高校生にできるだけ進学してもらおう機会を作ることが大事だと思っている。そうした中、浜田高校は県立大学と将来的に連携を取っていくと伺ったが、具体的にどういった連携を取られるのか聞きたい。

**(浜田高校校長)**

- ・昨年度は10数名が県立大学に進学している。連携については、県立大学で実施されている『バーチャル国際交流』に昨年度、実験的に高校生も2回参加させていただいた。この結果、2年生の生徒が参加後の進路希望調査で県立大学への意識の順位が上がっていた。県立大学の取組を見る機会を高校生に作ることが重要だと考えており、今年度については、高大連携推進員が島根県から浜田高等に派遣されているので、個別具体的なことについて検討しながら、大学で何をやっておられるかを高校生に見えるようにしたい。

**(浜田商工会議所専務 意見)**

- ・例えば旭町の場合、いろいろな学校から無料のバスが入ってきている状況で、交通の確保が十分でない地域ではいくら地元の学校に進学したくても、そういったバスが入ってくるとそちらへ流れていく状況にある。ニーズ把握をされるのであれば、そういった保護者の意見、引いては、そういった保護者の意見をしっかり聞いていただいた上で、浜田市として、県として、地元の学校に進学しやすい環境づくりも考えていただきたい。

**[意見交換での意見]**

**(はまだっ子共育運営委員会代表 意見)**

- ・今後、子どもたちが学びやボランティアで地域に入ってくるようになった時、それを受ける大人たちが本当に子どもたちの育ちを理解して受けられるだろうか？といった懸念がある。
- ・地域に出てくる高校生を地域のマンパワーで活用する、行政課題に誘導するのではなくて、高校生自身がどんな小さなことでも取り組みたいことを大事にできる大人が地域に必要であり、是非、コンソーシアムとして、私たち大人の学びの場を設けるような事業を予算化し、取組んで欲しい。
- ・教育の中でよく『人材』という言葉が使われるが、危うさも感じている。『人材』というのは誰かにとっての『人材』であり、子どもにとっては『人材』ではなく「私自身がどうこの社会を創っていきたいか？」「どんな社会を自分たちは創るのか？」今の社会に合わせるのではなく彼らがこれから創ってい

きたい社会と一緒に切り拓いたり、そのために学んだり、その部分を私たち大人が邪魔をしないことが重要だと思う。

**(浜田ろう学校校長 意見)**

- ・大人側の姿勢として『失敗を許容』、言い換えると「わざと失敗をさせる度量や余裕、見通しを持った上で許容する」という姿勢が重要だと思う。
- ・子どもたちはすばらしい感性を持っている。地域課題解決型学習で子どもたちは育つと思うが、教材となる課題と自然な形でどう出会わせるか、向き合わせるかということにもう少し研究と工夫が必要で、そのようなものが浜田にもできたらすばらしいと思っている。

**(県立大学連携交流課長 意見)**

- ・県立大学としても「地域に愛される、頼りにされる大学」にならないといけないと考えており、地元の高校と連携して、「県内でもこんなことが学べるんだ」、「こんな活動ができるんだ」ということを生徒さんに1人でも気づいてもらいたいと思っている。
- ・これまでも事業展開する中で、これは高校にも展開できるのではないかと、思うものもあるので、これは高校にもお声がけした方がいいと思うものは、ぜひお声がけさせていただいて、許される範囲で生徒さんに参加して欲しい。
- ・赤坂ゼミの中で学生から学習スペースの設立計画を立てたいという提案があった。内容は、浜田市内の中高生が勉強する場、自習する場が少ないという課題意識と駅周辺の活性化という切り口を掛け合わせて、県立大学生や中高生が通いやすいような場所に学習スペースを作って、中高生と大学生がそこで関わ合いながら、お互いにモチベーションを維持し、勉強や社会での活動などを教え合いながら交流をする場ができないか、というものだった。

**(まちづくりセンター代表 意見)**

- ・まちづくりセンターとして、みなさんと協力して、浜田の宝物である高校生の皆さんの何かお手伝いできればなと思っている。

**(会長 まとめ)**

- ・今日お出かけいただいているみなさまそれぞれに、学校の魅力化、地域の課題解決のための取り組みをしておられると思います。しかし、それが見えないので、それをこうした場で共有させていただくことで、もしかしたら結びつくような契機にもなると思っている。本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

以上